

全林研会長賞

鳥取県

## ちづ 智頭林業研究会

所在地 > 鳥取県八頭郡智頭町

設立 > 昭和33年10月

会員 > 男12人 女10人      年齢 > 32歳～75歳 平均56歳

### 主なプロジェクト

◆ 地域の若い林業人を育てる

### ◻ 地域の若い林業人を育てる ◻

～智頭林業の継承に思いを寄せて～

#### 1. 智頭林業について

智頭地方では吉野林業をモデルとして、400年以上前から植林を始め、「慶長杉」に代表される手入れの行き届いた大径木の美林が多くあり、伝統ある林業地として今日に至っております。

町内の民有林の樹種別面積はスギが8,559ha、ヒノキが4,631haありますが、このうち80年生以上の林分はスギが1,296ha、ヒノキが410haとなっており、高齢林の比率が高くなっています。

町内にある原木市場では記念市、特別市、定例市などが開催されていますが、記念市、特別市では全国各地から買方が参集し、賑わいを見せています。

最近では、智頭町森林組合には若い林業従事者が増えてきていますが、一方で熟練した技術を持った林業従事者が減り、労働力不足と木材価格の安さも相まっ



慶長スギを代表とする美林

て、手入れが行き届かなくなっており、特に戦後造林された林分の間伐が急務となっています。

このように、現在の智頭林業は大きな課題を抱えています。我々智頭林業研究会は、智頭林業の将来を見据え、未来を担う林業人の育成を主体とした活動を続けています。

## 2. 県立智頭農林高等学校での取り組み

智頭林業研究会では、自然豊かな郷土の林業に光を当てることを目的として、地元の高校や小学校と連携して、以前から森林整備に取り組んできました。



鳥取式作業道の実技指導

10年程前、林研メンバー数名が智頭農林高校に出向き、演習林での作業道の作設や間

伐の推進などを提案し、現地の踏査を行いました。その後、森林科学科の先生2人が来訪され、災害に強い開設方法である鳥取式作業道のオペレーター研修をされました。これがきっかけとなり、その翌年から森林科学科の3年生を対象に鳥取式作業道開設の実技指導を始め、今年で5年目になります。バックホウの基本動作からバケットの動かし方、盛土の扱い方など指導していますが、若い人たちなので飲み込みも早く、熱心に取り組んでいるので随分上達されました。

この春は2名の生徒さんが智頭町森林組合に採用され、山を育ててゆく林業人として活躍しているようです。

このように、若い人たちに林業を知っていただき、体験していただく取り組みを継続的に実施することで、徐々にではありますが、林業に対する理解と関心が若い人たちに浸透しつつあると感じているところです。

### 3. 智頭小学校での取り組み

町内の6つの小学校は2年前に統合し、智頭小学校となりましたが、統合の5年前から、(統合前の那岐小学校)毎年、林業学習を取り組んできました。

山の現況、手入れの状況など説明した後で、山の中を歩きながら植物の話もします。花が咲いていたり、食べられる植物はその場で食べたりします。次にスギの木を伐倒し、ヘラを使ってスギの皮をむいてもらいます。みずみずしい木肌はとても美しいし、触るとすべすべしていて不思議な体験のようです。その後でバックホウの模擬運転に挑戦します。私が介添えて操作しますが、うまく土が移動できると他の児童から「わー」とか「すごい」とか声が上がります、盛り上がります。

子どもたちの歓声を聞いていると、こちらをもっと頑張ろうという気持ちに自然になってきます。これからも小学生への森林・林業体験学習を継続して実施し、一人でも多く森林・林業に関心を持っていただけるようになればと思っています。

### 4. 森のようちえんの子どもたち



森のようちえん

平成21年4月に開園した森のようちえん。現在47名の子どもたちが智頭町内の自然を園舎として、のびのびとすくすく育っています。

私も最初の2年は、ボランティアスタッフとして年3回くらい参加し、山の中で子どもたち

と遊びました。ここ3年は子どもたちがやってきて、かずら編みをしたり昔話をしたり絵本を読んだりしています。森のようちえんの代表は、林研の元メンバーの女性ですが、Iターン女性が智頭を変えるという見本のような事例です。

## 5. 研修生や森林見学ツアーの受け入れ

平成23年9月から10月にかけて、農林水産省の新人職員の1カ月研修として女性職員1名を受け入れました。作業道開設、伐倒搬出、植林、下刈りなどの作業の他に、町内の行事にも積極的に参加し、この研修の内容は地元新聞記事にも取り上げられました。

平成23年には鳥取県東部地区で自由参加の山見学ツアーを、平成25年10月に京都女子会、11月には県内建築士会、兵庫県の林業グループなどの見学を受け入れました。

自分の家を葉枯らし材で建てたいという鳥取市内の女性が、山見学ツアーに参加され、その後、木の伐倒に立ち会い、天然乾燥の木を使っていたきました。家が完成した時には私たちも招待していただきました。

このような取り組みによって、林業を目指す人や都市部の住民に、智頭林業の良さを広報していきたいと思います。

## 6. 森のめぐみ工房の取り組み

13年前、東京在住のバスケットリー作家の後藤宏子氏が来町され、かずら編みを教わりました。斬新な作品群にすっかり魅せられ、是非取り組みたいと思い、県に掛け合いました。林業教室として企画して欲しいと申し出、実施の運びとなりました。

通算4回、林業教室として取り組み、30名の参加者とともに種々の技法を教わることができました。その時のメンバーが森のめぐみ工房の結成につながりました。その後、町内で行われる雪まつりやいきいき農林業まつりにも例年出展をしています。

平成21年に智頭町商工会の勧めで「とっておき観光スポットーひょいと因但ナビ」に掲載されたのをきっかけに、この取り組みがNHK鳥取放送局や日本海テレビ放送にも取り上げられました。

その後も近隣の公民館や道の駅、地元小学校など、活動の場を広げており、加えて去年は鳥取市で開催された第30回全国都市緑化フェアにも参加し、森林・林業を違う角度から宣伝・紹介する活動も実施しています。

## 7. これからのこと

今年6月、智頭町制施行100周年を迎え、記念の植樹活動があり、小学生が智頭農林高校生に教わりながら苗木を植えました。木の成長とともに子どもたちも健やかに育って欲しいと思います。

智頭林業研究会は、経営感覚のある林業人を育てることを目標として活動してきました。

地域の子どもたちに林業の醍醐味や天然素材の素晴らしさ、自然の奥深さなどを伝えることで、林業に対して理解を深め、関心を持ってもらえるよう努めてきました。

私たちの周りに普通にある自然－森林が私たちに本当の大きな豊かさをもたらしてくれるものであることを、私たちが身をもって実践することで、若い人たちにも理解していただき、必ずや次世代に引き継いでくれるものと確信し、今後も活動を継続していきたいと思います。

また、林業という仕事がいずれも輝ける仕事でありますようお願いしています。

